

コード	304010601
記入日:	H22.6.17

課コード	112
課名	こども課
課長名	荒木宣貴
担当者	尾上富幸

事務事業途中評価表

作成年度	平成 22 年度
------	----------

評価対象事業名称	私立保育所措置事業費
----------	------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け			
政策コード	3	政策名称	誰もが安心できる保健・医療・福祉の充実	款コード	3		
施策コード	304	施策名称	ふれあい、支えあい、助けあい、みんなで育てよう未来の宝	項コード	2		
基本事業コード	30401	基本事業名称	地域における子育ての支援	目コード	2		
事務事業コード	3040106	事務事業名称	私立保育所措置事業費	細目コード	260		
関連計画	次世代育成支援行動計画		法令・条例規則等	児童福祉法			

計画(PLAN) ※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象:誰、何を対象にしているのか		対象指標:対象の大きさを表す指標					
(対象1)	民間保育園	(対象指標1) 民間保育園数 6箇所					
(対象2)		(対象指標2)					
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
*****	民間保育園(桐保育園、青葉保育園、白菊保育園、歓喜園、つばみ幼児園、福見保育園)に対し、児童福祉法に基づき運営費を助成している。	*****	*****	*****	補助保育園数÷私立保育園数	*****	
		①	民間保育園数	6箇所	100%		平成21年度
		(達成率分析)	全民間保育園に対し、補助をしている				
		*****	*****	*****	*****	*****	
		②					
		(達成率分析)					
目的:何をしたいのか		成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
児童福祉法に基づき、民間保育園に対して運営費を支弁して保育行政を行っている。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
		*****	*****	*****	入所児童数÷入所希望児童数	*****	
		①	入所児童数	307人	100%		平成21年度
		(達成率分析)	申請者の受け入れを完全実施				
				*****	*****	*****	*****
		②					
		(達成率分析)					

実施(DO) ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成20年度以前	平成21年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	①	箇所	33	33	27	6	6				
	②										
成果指標	①	人	1,416	1,416	1,109	307	307				
	②										
総事業費C(A+B)	千円	1,516,823	1,516,823	1,212,319	304,504	304,504					
直接事業費A	千円	1,499,323	1,499,323	1,198,319	301,004	301,004					
人件費B	千円	17,500	17,500	14,000	3,500	3,500					
内訳	従事職員数	人	2.5	2.5	2.0	0.5	0.5				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円	507,069	507,069	404,280	102,789	102,789				
	県補助金	千円	253,533	253,533	202,139	51,394	51,394				
	起債	千円									
	その他	千円	349,072	349,072	280,701	68,371	68,371				
一般財源	千円	407,149	407,149	325,199	81,950	81,950					

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	児童福祉法に基づき町が行う事業である。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	児童福祉法に基づき町が行う事業である。
	事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	児童福祉法に基づき町が行う事業である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	保育事業を必要とするニーズに対応している。
	成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	児童福祉法に基づき町が行う事業である。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	適正な保育行政が出来なくなる。
	類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	児童福祉法に基づき町が実施しているので、他の方法は難しい。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	児童福祉法に基づくものなので、出来ない。
	人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	児童福祉法に基づくものなので、出来ない。
	受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	児童福祉法による保育所一部負担金徴収規則に基づき定めている。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	児童福祉法に基づき町が行う事業である。
		有効性	児童福祉法に基づき町が行う事業である。
		効率性	児童福祉法に基づき町が行う事業である。
		課題に向けた改善策	特になし
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり。
		有効性	1次評価のとおり。
		効率性	1次評価のとおり。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続				類似事業と整理統合
				事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。